

■恋川春町 戯作者。藩士務めながら、草双紙の作風を一変、寛政改革を風刺して大当たりも、当局の忌諱に触れ、没した。

こいかわはるまち

石田梅岩没・1744＝ 紀州徳川家附家老の桑島勝義の次男に生まれる。

徳川吉宗隠居1745＝ 1歳：

徳川吉宗没・1751＝ 7歳：

薩摩藩工事・1753＝ 9歳：

大岡忠光没・1760＝16歳：

・・・・・・1762＝18歳：

・・・・・・1763＝19歳：召しだされて小島藩士，中小姓格右筆見習書役兼帯となり，小島藩士で父方伯父倉橋勝正の養子となる。江戸小石川春日町に住したので恋川春町と号した。画を鳥山石燕・勝川春章に学び，自他の作の挿絵を描く。酒上不埒の名で狂歌もよくし「狂歌師細見」にも社中ともども名が見える。親友朋誠堂喜三二の媒介で妻をめぐり”婚礼も作者の世話で出来ぬはこれ草本の糸にしなるらん”と詠んだ。

明和事件・・1767＝23歳：通称を隼人から寿平と改名。

その後，小納戸格，刀番となり，

御蔭参流行・1771＝27歳：藩主松平昌信が死去して松平信義が藩主になるとさらに出世，

田沼意次老中1772＝28歳：

黄表紙始・・1775＝31歳：*「金々先生栄花夢」，

雨月物語刊・1776＝32歳：取次兼留守居添役となり，養父の隠居を受けて家督相続後，内用人に就任。*「高慢齋行脚日記」によって当世風俗をうがち，従来の草双紙の作風を一変せしめた。

以後，天明にかけて活躍，

「化物大江山」「三幅対紫曾我」「辞闘戦新根」「無益委記」等20余部の作がある。

・・・・・・1780＝36歳：

その後も，側用人兼用人方助，用人，年寄格加判之惣となり，藩政中枢に参与するようになり，

田沼意次失脚1786＝42歳：

寛政改革始・1787＝43歳：年寄本役，石高120石となる。

・・・・・・1788＝44歳：*寛政の改革を風刺した「鸚鵡返文武二道」を執筆，

初の横綱・・1789＝45歳：*大当たりをとったが，松平定信から呼び出しを受ける。病気として出頭せず，隠居してまもなく没した。自殺説も流れた。